

ユネスコ

2019.10
vol. 1166



ミャンマー・ギョジャー村の「継続教育プログラム」授業風景

多民族・多言語国家ミャンマーにおける 基礎教育支援

約135もの民族が暮らすミャンマーでは、公用語のビルマ語以外にさまざまな言葉が存在する。世界寺子屋運動の支援対象地であるバゴー地方域にも、少数民族の村がある。ポカウン・タウンシップにあるギョジャー村は、住民の多くがチン族だ。ここでは、学校で学ぶビルマ語は村の人びとにとって欠かせないスキルとなる。しかし、貧困のため中途退学してしまうと、仕事に就きにくなり、貧困から抜けられない「負の連鎖」が起きてしまう。

そんな中、世界寺子屋運動で提供する「小・中学校を退学した青少年のための『継続教育プロジェクト』」は、ビルマ語の識字・読解力促進が含まれ、ギョジャー村の青少年には貴重な学びの機会となっている。学習者のペンプウウィンさんは、このプログラムで勉強できた喜びとともに、「ボランティアをしている小学校でも、自分が学んだことを児童に伝えたい」との希望を語った。文化的多様性に富み、人びとの助け合いの意識の高いミャンマーで、こうした学びの場をつくる意義は大きい。

きょういくで、あしたへいく。

CONTENTS

- 1 全国大会レポート
第75回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京
- 5 特集 世界寺子屋運動
ミャンマー寺子屋プロジェクトの歩みとこれから
- 7 イベントレポート
●カンボジア高校生スタディツアー
●チームエナセーブ 未来プロジェクト
●理事会報告
- 8 ユネスコ活動の広場
活動報告
●東日本大震災子ども支援募金 ユネスコ協会就学支援奨学金
●アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム
- 9 活動報告
●世界寺子屋運動
●世界遺産活動
- 11 お知らせ・募集

世界寺子屋運動 30 周年記念 第 75 回日本ユネスコ全国大会 in 東京

テーマ

学びを通して 地域を振り返る

主催：日本ユネスコ協会連盟 共催：東京都ユネスコ連絡協議会



9月7日(土)・8日(日)、東京都豊島区立目白小学校体育館で、第75回日本ユネスコ運動全国大会が開催された。2日間のべ900名が全国から集った。今年是世界寺子屋運動30周年を記念し、寺子屋運動に関わってこられた国内外のゲストをお招きして、重層的に意見を重ね、草の根で続けてきた運動の意義を再確認する大会となった。

(編集部：永山 多恵子)

1日目 サブテーマ 「寺子屋での学びがもたらしたもの —成果と展望をめぐって—」

佐藤美樹新会長となって初めての全国大会は、「世界にはいまだに文字の読み書きのできない人が多数おり、国内でも外国にルーツを持つ人の増加からくる言葉の問題が浮上しているいま、寺子屋運動30周年を記念するこの大会を今後のアクションプランのヒントにしたい」との力強い会長挨拶から始まった。大正大学の学生が編集した世界寺子屋運動30周年記念動画に続き、3カ国の元識字学習者を招きディスカッションが行われた(p3～4に抄録)。

識字NFE専門家のウルリケ・ハネマン氏は、元UNESCO生涯学習研究所プログラム・スペシャリストとしての経験から、世界の生涯学習と識字・ノンフォーマル教育の現状と役割、今後の課題などについて、基調講演「成人識字教育とノンフォーマル教育が持続可能な開発目標達成に果たす貢献」を行った。ハネマン氏は、「識字を身に付けることで人は生涯を通じて学び続けることが可能になる。日々の生活の中だけでなく、社会との関わり合い、文化活動への参加、そして仕事をしていく上での基盤となる」と30年間地道に活動を続けてきた世界寺子屋運動を称賛し、このように続けた。「基礎教育から大人を取り残さないということは、SDGsのように幅広い課題解決に向けて、すべての人が行動するために不可欠といえる。例えば、目標1の「貧困削減」、目標2の「飢餓撲滅」、目標3の「健康と福祉の促進」のいずれを達成するにも学校に通えない人たちへの基礎教育は欠かせない。また、個の学びは家族、地域、社会の学びと発展にもつながっていくため、地域学習センターとして機能する寺子屋が果たす役割はとても大きい」と活動の継続、発展に向けた期待の言葉で締めくくった。

この有意義な講演の後、パネルディスカッション「世界寺子屋運動とSDGs」が行われた(p2に抄録)。

2日目 サブテーマ 「学びを通して共生社会を創る」

現在、日本では外国にルーツを持つ人の数が急増し、その子どもたちの日本語の読み書きや、学校での学習が問題になっている。そこで、日本国内での学びについて、三者三様の側面から考えるパネルディスカッションが行われた。モデレータは日ユ協連の関口広隆事業部部長。

10年間に10万本の苗木を植える緑化政策を進める豊島区教育委員会委員長の三田一則氏は、「2019年から多言語化に対応する10ヵ年計画を進行中で、共生社会の一員としての力をつけられるよう、多面的に応援していきたい」と語った。新宿区を拠点に外国ルーツの青少年や家庭支援に従事するNPO法人みんなのおうち代表理事の小林普子氏は、「日本語の教育についていけない、家庭にも居場所のない子どもたちと、地域社会との架け橋になりたい。私たち皆が当事者として考える必要がある」と訴えた。また、6カ国の地元校で学んだ(株)電通クリエイティブ・ディレクターのナージャ・キリーロバ氏は、「私はいろんなバックグラウンドを個性にしていって。先生は、そんな子どもの光る瞬間を見つけて応援してほしい」と結んだ。

2日目の最後は、シリーズ50本目となる映画「男はつらいよ50お帰りの寅さん」が年末に公開される山田洋次監督が登場し、「2019年 寅さんの学校論」のテーマのもと基調講演を行った。「人は何のために学ぶのか」といった問いに寅さんが応える数々の名シーンが上映された。また、1993年公開の映画「学校」については、題材とした夜間中学でのエピソードを紹介。「夜間中学の生徒たちは皆、昼間働いています。だから、教室は重苦しいのかと思っていたら、とても明るかった。生徒たちは文字を覚えるのが面白く、嬉しい。それを教える先生たちも喜びを抱いている。だからこの学校は生き生きしているんだと。昼間の学校の重苦しい管理体制から見ると、別世界のよう伸びやかで、それに惹かれて何年もかかって脚本を書きました」「夜間学校の先生には、撮影所で指導もしてもらいました。あるとき、先生役の西田敏行さんが生徒に対して『それは違うよ』といったんです。すると先生は、私たちは決して『違う』とはいわないんですよ。文字を知らないが故に、職場や家庭で差別を受けてきた人たちが、手をあげて、立ち上がって返事をする。それにどれだけの勇気がいっただろう。だから、手をあげただけでもう合格点なんですと。教育とは何か、その本質について語る監督に、会場からは拍手が鳴り止まなかった。

パネルディスカッション

「世界寺子屋運動とSDGs」(抄録)

※総括セッションもあわせてまとめています。

【モデレータ】

笹井 宏益

(玉川大学教授・日本ユネスコ協会連盟前理事)

【パネリスト】

高木 要志男

(富山ユネスコ協会会長)

池田 昌代

(世界寺子屋運動名古屋実行委員会事務局)

北村 友人

(東京大学大学院准教授)

アブドゥル・モティン (バングラデシュ SOJAG 代表)



笹井 (以下、敬称略) 世界寺子屋運動は、日本から途上国への一方通行ではありません。日本から現地を訪ねるスタディツアーや、現地で寺子屋に関わる人びとを日本に招いての報告会のほか、日ユ協連の支援が終了しても、自主的に現地と交流を続けるケースもあります。このような世界寺子屋運動の性格は、持続可能な開発目標 (SDGs) の概念を広めることに役立っています。ここでは、いろいろな分野の方から見た寺子屋運動について、お話しいただきます。

北村 「持続可能な」とは、将来の世代のために自分たちが我慢しなくては、というわけではありません。皆が豊かでいられるにはどうしたらよいか、ということ。そして、地域から始まるのがSDGsには必要です。身近なところで、自分が理解できることから学ぶ。そういうことを広げてきたのが寺子屋運動ではないでしょうか。

高木 教師をしていたとき、どんな授業がいいか考える中で、たどり着いたのが「生きる構え」を学ぶということ。そのために、子どもたちの自立心や感受性を活かさない手はない。退職してからもユネスコ教室で、リーフレットづくりや地域活動などをやりました。寺子屋運動については、ホテイアオイでつくったバッグなど実物を見て「触る」とか、映像を「見る」という実感を大事にしています。

池田 名古屋国際センターは、地域の国際化の促進を目的とした名古屋市の外郭団体です。そこで、世界寺子屋運動に協力するため、書きそんじハガキの回収を行っているのが名古屋実行委員会です。当初から、ただハガキを集めるのではなく、「ハガキや手紙と文字・識字」「誰でもできる国際協力への一歩」というストーリーを大切にしてきました。寺子屋運動をツールにして世界に目を向けてもらおうと意識しています。

モティン この30年間、運動を推進してこられた皆さまに感謝申し上げます。30年前、世界寺子屋運動が始まったとき、寺子屋をつくらせたいとお願いしました。当時、我が国の識字率は40%未満でしたが、いまでは70%を超えています。これまでに10校の寺子屋をつくり、いまでは地域社会が主導権を持って維持しています。子どもたちが通い続けられるように、母親へのミーティングも行っています。また、女性への教育にも力を入れています。その結果、早期結婚やレイプなどへの対策を、女性たちが政府に求めるデモを行い

ました。寺子屋はエンパワメントの手段。どうやって人生を生きるべきかを学べる場所です。

笹井 SDGsと学校教育との関係についてはどうですか。

高井 まずは職員の研修が必要だと思います。SDGsを理解した上で、ESDを捉えなおす。もうひとつは、「誰一人取り残さない」のは教育では難しいけれど、教育でこそ誰一人取り残さないことが大事。そういう決意で臨むことが、学校教育に浸透しなければなりません。

笹井 寺子屋では、学んだ人が教えるとか、運営に協力するとか、経済のみならず運営の自立も重要ですね。

北村 カンボジアでは、日ユ協連以外にもCLC (寺子屋) がありましたが、多くはやめてしまいました。なぜなら、政府からの支援に依存していたからです。日ユ協連の寺子屋はそこが違う。最終的には現地の人たちで運営することを、初めから考えています。だから、皆が寺子屋を自分たちのこととして考えるし、学んだ人が教える側になるサイクルを、自分たちでつくっているから自立できる。寺子屋運動が30年かけて築き上げてきた大きな財産です。

笹井 それでは最後に、寺子屋運動に何を期待しますか？

モティン 人びとをエンパワメントする。それこそが寺子屋の力です。社会的な教育のための運動につなげていきたいというのが、私の希望です。

北村 寺子屋はコミュニティの拠点。そこに人が集まることで、新しいことが生まれます。今後はネットワーク化が進んで、学びの輪が広がればいいですね。日本の人たちと現地の人たちとのつながりの輪も、もっと広がってほしい。

高井 ユネスコ活動は草の根の運動。子どもたちには、わかりやすい教材、身近なことから想像したり考えたりできる、そういうものを見つけていきたいです。

池田 世界全体の向上はもとより、世界を知り、学びや教育について考えるきっかけを与えるためにも、寺子屋運動は続いてほしい。ハガキ回収と運動に関わることで、私たちが学んでいきます。

笹井 自分のこととして考える。それが社会参加となり、寺子屋運動につながっていく。政府にはできないような領域があり、草の根の社会で同じ目線に立っていくのが大事だと改めて思いました。今日はありがとうございました。

ミャンマー寺子屋プロジェクトの歩みとこれから

従来ミャンマーは高識字率（90%超）の国とされてきたが、近年（2017-18年）のUNESCOのデータで76%に下方修正された。政府はビルマ語を共通語として普及する取り組みを進め、母語のみしか読み書きできない少数民族も、ビルマ語の識字教育対象者としてとらえるようになった。内戦の影響を受けた人びとや、軍政時代の著しい経済停滞によって生み出された貧困層が多く取り残され、義務教育を終えることなく働く子どもの多さが深刻だ。

近年認識されつつある識字や、中途退学児童生徒の課題を念頭に、日本ユネスコ協会連盟では、学校に行っていない青少年を対象とした「継続教育プログラム」を、2017年から3ヵ年計画で実施している。活動の実績と課題を振り返る。

（事業部：穴戸 亮子）



中途退学者 2049 人中約 68% に学びの機会を

首都ヤンゴン北部に位置するバゴー地方域の4地域（バゴー郡タナットピン、タウングー郡オクトウィン、ピー郡ボカウン、ピー郡パウンデー）を対象地とし、1年あたり480人、3ヵ年で1440人の青少年が学ぶことができた。対象村はこれまでに46村※に上り、そこに暮らす中途退学者数は2049人（ミャンマー識字リソースセンター（MLRC）調べ）いたが、そのうち約68%がこのプログラムで再び学ぶ機会を得たことになる。

※支援した村の数は、毎年20村前後あるが、1年のみ実施したところと複数年実施したところがあるため、実数では3年で46村。



村の行事でダンスを披露する学習者

どんな青少年が学んでいたか

MLRCの調べによると、これまでの学習者の教育的背景は、就学経験なし（3%）、僧院学校のみ（0%）、小学校低学年（10%）、小学校高学年（42%）、中学校（45%）で、最低限の読み書きができる青少年が8割以上を占める一方、それ以外には非識字に近い状態であった。就業形態は、家事または家族単位の農業に従事（52%）、家の外で雇用される仕事に従事（48%）とほぼ半々であった。雇われ仕事の例としては、レンガづくり、葉巻づくり、農場勤務が多く、仕事といっても低賃金のものがほとんどで、厳しい経済状況であることがうかがえる。



レンガづくりの仕事に従事する学習者

深刻な社会問題に触れるテーマも

「基礎識字」「算数」「読解力促進」「保健衛生」「生活スキル」で構成された授業が9ヵ月間行われた。特徴的なのは「保健衛生」と「生活スキル」の幅広さだ。教材は、MLRCの希望を受け、過去にUNICEFがミャンマー向けに開発したものを活用している。10代で大人たちと働く青少年の健全な成長を助ける内容となっている。さらに、彼らは貧しさゆえにさまざまな危険にさらされ、不当な扱いも受けやすい。これらのリスクに適切に対処できるよう、タバコや薬物の危険性、HIV/AIDS予防、子ども・労働者の人権、自分と相手をと共に尊重するコミュニケーションなど、深刻な社会問題に触れるテーマも扱われた。



昼間働く人たちは夜間、暗い照明のもとで学ぶ

学習者には前向きな変化が

学習者を見守ってきた関係者からは「いままで働くばかりだった子どもたちが、プログラム参加後、身だしなみがよくなり態度が落ち着くなど、大きく変わった」という感想が多く聞かれた。学習者も一方的に支援されるのではなく、皆で話し合っ、仏教行事の手伝いや豪雨被害を受けた村の道路の補修など、村のために奉仕活動をした例が複数の村で報告された。教育を受けることで、ミャンマーで大切にされてきた功德の文化も、学習者の行動に垣間見られるようになり、教員や保護者から歓迎する声が上がっている。

今後に向けて（2020年度～）

3ヵ年計画の最終年を迎え、MLRCと今後の展開について協議している。現地からの希望は、「継続教育プログラム」の実施期間延長と対象年齢の拡大だ。政府も基礎教育の改善に取り組んでいる。しかし、教育省がUNESCOバンコク事務所とともに中途退学児童生徒向けの「ノンフォーマル初等教育」「ノンフォーマル初期中等教育（中学校程度）」プログラムを開発し、全国展開しているが、膨大なニーズにはなかなか追いついていない。

中途退学した子どもたちが再び学ぶ、また大人が基礎教育や職業訓練を受けられる場合は、今後もますます求められている。

ミャンマーはこんな国



面積 約68万km²（日本の約1.8倍）
人口 約5400万人
主言語 ミャンマー語
主宗教 仏教（約90%）
民族 主にビルマ族（70%）、シャン族、カレン族、ラカイン族、モン族など

現地パートナー団体

ミャンマー識字リソースセンター

(Myanmar Literacy Resource Center: MLRC)



スタッフ紹介（敬称略・右から順に）

ミャットナイン

MLRC「継続教育プログラム」統括マネージャー。元教育省職員で、MLRCの前身である同省教育研究局に長年勤務し、教育に関するさまざまな調査に携わる。現在は「継続教育プログラム」担当チームを代表して、教育省のノンフォーマル教育担当局や、各タウンシップ及び村の教育局などの行政組織との交渉や調整を担う。

ティンマウンウィン、リンミント、サンヘイマー

プログラム担当者。教員研修、教材などの調達、各クラスの実施状況のモニタリング、各村からの相談事項に対するアドバイス、学習者インタビューなど、さまざまな業務を担当する。識字教員研修の指導者として、政府や他団体のプログラムでも活躍する。

イエーミンソウ

MLRCの事務補助を担当。事務局備品、プロジェクトの教材などの調達・管理を行う。

EVENT REPORT

第6回高校生カンボジアスタディツアー

7月30日～8月6日の8日間、公益財団法人かめのり財団との共催で標記スタディツアーを実施した。全国から10名の高校生が参加し、都城ユネスコ協会（宮崎県）の有里泰徳事務局長が団長として同行した。



カンボジア民謡「アラピア」を日本の高校生が披露。復学支援クラスの子どもたちと一緒に歌った。

プノンペンでは、在カンボジア日本国大使館とUNESCO事務所への表敬訪問に加え、ツールスレン博物館やキリングフィールドといった、ポル・ポト政権の「負の歴史の舞台」を訪問した。シェムリアップでは、「世界寺子屋運動」「世界遺産活動」のプロジェクト地で、寺子屋の子どもたちや現地スタッフとの交流を深めながら、民間ユネスコ運動による国際協力を体験した。

参加者各自がさまざまな分野に関心を持っており、最終日の総括ミーティングでは、まさに十人十色の感想が共有された。「カンボジアのゆったりとした時間の流れや、家族と過ごす時間を大切にしている生活を、とてもうらやましいと感じた」「内戦の歴史に関して、同情の視点だけでなく、未来の視点を持って行動に移していくことが重要だと気づいた」「カンボジアの人は『自分ではない誰かのために学ぶことは幸せ』だと感じている点が、日本人と異なると思った」。ひと夏で成長した高校生の今後の活躍に大いに期待したい。（事業部：香渡 里沙）



復学支援クラスの子どもたちと紙飛行機を飛ばして文化交流

未来遺産運動 チームエナセーブ未来プロジェクト

今年で7年目を迎えた「チームエナセーブ未来プロジェクト」。ダンロップ（住友ゴム工業株式会社）は、国内初の自動車タイヤ第1号の生産から100年を機に、世界初の100%石油外天然資源タイヤを2013年に発売。ダンロップの環境に対する思いと、100年後の子どもたちに地域の文化や自然を守り、継承する日本ユネスコ協会連盟の「未来遺産運動」の趣旨が合致し、協働事業として開始した。



福井県越前市では、草取りや泥上げ作業などピオトープの保全活動に取り組んだ

「プロジェクト未来遺産」に登録されている活動に、ダンロップ社員が参加し、毎年全国8～10カ所で環境保全活動を実施している。今年は5月に新潟県からスタートし、5カ所での活動が終了した。9月以降は、北海道白老町でトラストの森の保全活動（間伐作業等）、岡山県美作市で棚田の保全活動（稲刈り等）、福岡県福岡市で和白干潟の保全活動（アオサの除去作業）を行う予定。

日ユ協連では、このような企業の社会貢献活動との積極的な連携を通じ、全国的な機運の醸成を目指し、100年後の子どもたちへ日本の豊かな自然や文化を伝えていくことを目指している。（企画部：青山 由仁子）

第531回 理事会報告

7月20日（土）東京都で第531回理事会を開催した。

冒頭、佐藤美樹新会長より会長就任にあたっての抱負が述べられた。第530回議事要録の承認に続き、会員の入退会（維持会員入会3、個人会員入会1退会1）が全会一致で承認された。続いて「2019年度以降の理事会運営に関する基本方針」の説明があり、質疑応答の後、承認された。次に、「維持会員施策について」の報告があり、質疑応答が行われた。その後、「2019年6月から7月までの事業報告および今後の日程（案）」の報告に加え、「後援・共催事業」の説明、「理事アンケート」の説明があり、了承された。

未来のあたりまえをつくる。



DNP
大日本印刷



東京2020オフィシャルパートナー（印刷サービス）

DNPは、東京2020オリンピック・パラリンピックを応援しています。

ユネスコ活動の広場

皆さまからのお便りをお待ちしています。

各地ユネスコ協会の活動

● 厚木ユネスコサマースクール【厚木ユネスコ協会】

曹洞宗の寺で座禅体験、公民館でのユネスコ学習会、レクリエーション、平和のメッセージ・平和の鐘を鳴らそうなど、毎年豊富なプログラムが組み込まれたサマースクールに、今年は21名の小・中学生とスタッフが参加。



平和の大切さについて語る住職の話に真剣に耳を傾けた

参加者は、寺の住職のご家族による戦時体験と平和の話に真剣な表情で聞き入り、SDGsを学習し、平和のメッセージを一生懸命考えて発表し合い、大変充実した時間となった。

● 44周年記念コンサート【多度津ユネスコ協会】

“Think globally, Act locally” をモットーに国際理解講座、教養講座、異文化理解講座を開催している多度津ユネスコ協会は、今年で設立44周年を迎えた。特別企画として「バス・バリトン村山岳サロンコンサート」を開催。133名の来場者が

素晴らしい歌と心温まるトークを楽しんだ。会場では、同時に東日本大震災 ユネスコ協会就学支援奨学金の募金活動も行った。



盛況だった44周年コンサート

● 民間ユネスコ運動の日「平和の鐘を鳴らそう」

今夏も、民間ユネスコ運動のPRや平和の大切さを伝える活動が全国で行われた。秋田ユネスコ協会では、市内の千秋公園で鐘をついて平和を祈った。4年前、戦後70年を期に、戦争の記憶が風化していくことに危機感を覚え、始めた。5回目となる今年は、幼稚園児から小学生まで27人が平和について考える「世界と遊ぼう」を実施。その後、小学生以上の児童15人が千秋公園に移動し、正午に一人ずつ鐘をついた。この行事を通して、子どもたちの心に平和を願う気持ちが芽生えることを期待したい。

(事業部：尼子 美博)



平和を願いながら鐘をつく児童たち

活動報告

● 東日本大震災子ども支援募金 ユネスコ協会就学支援奨学金

「ユネスコ協会就学支援奨学金」は、東日本大震災によって経済状況が悪化したご家庭の高校進学を希望する中学3年生を対象とする、返済義務のない給付型の奨学金プログラム。奨学金は、月額2万円を3年間に渡って奨学生一人ひとりのご家庭に直接支援している。



お陰様で毎日勉強や部活動に励んでいます。これからもしっかり頑張りたいと思います。

奨学生からのお便り

引き続き、子どもたちの学びを支えるために、皆さまからの温かいご協力をお願い申し上げます。

(企画部：小崎 好美)

● MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

三菱UFJフィナンシャルグループ (MUFG) と協働して標記基金を創設。震災により両親もしくはいずれかの保護者を亡くした小学校から高等学校までの児童生徒を対象とした返還不要の奨学金プログラム。

今年高校を卒業した奨学生からのお便りを紹介します。

(事業部：仁藤 里香)

大学での生活も早1ヵ月、
薬剤師になる夢に向かって頑張っています

支援金は、全く買っていなかった大学へ行くための私服やこれから何度も使うであろうスーツ、教科書に使わせていただきました。(中略)。自分のような遺児で経済的に余裕がなくても、学びたいことが学べるのは支えてくれる団体や人がいるからです。その方たちへの感謝を忘れず生きていきたいと思っています。長い間のご支援、本当にありがとうございました。

● 2019年度 第6回

アサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

7月、標記事業の今年度の助成校として35校が決定しました。ユネスコ協会の皆さまも、いざというときの地域の減災に向けて、各地で助成校の子どもたちが取り組む減災教育を、地域の視点でサポートしていただければ幸いです。(企画部：上岡 あい)

[助成校35校] 青森県 平川市立竹館小学校/宮城県 気仙沼市立瀨小学校、角田市立角田中学校、石巻市立河北中学校/茨城県 茨城県立鬼怒商業高等学校/千葉県 千葉県立館山総合高等学校/埼玉県 新座市立片山小学校/東京都 東京都立浅草高等学校/神奈川県 横須賀市立浦賀中学校、横浜市立東高等学校/静岡県 函南町立東小学校、浜松市立富塚小学校、袋井市立袋井中学校/愛知県 名古屋市内丸の内中学校/岐阜県 山県市立高富小学校、羽島市立中島中学校/富山県 富山市立楡原中学校/大阪府 大阪市立堀江小学校、八尾市立北山本小学校、大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程/奈良県 奈良市立鶴舞小学校/広島県 熊野町立熊野第一小学校、府中町立府中北小学校、熊野町立熊野中学校、広島県立廿日市高等学校/山口県 周南市立三丘小学校、山口市立平川中学校、山口県立田布施農工高等学校/高知県 高知県立大方高等学校/福岡県 福岡市立城西中学校、大牟田市立橘中学校/大分県 中津市立下郷小学校、日田市立東部中学校/熊本県 大津町立大津小学校、南阿蘇村立南阿蘇中学校

世界寺子屋運動

from アフガニスタン

カブールで寺子屋を建設中

首都カブール県中部のバグラミ郡で17軒目の寺子屋建設が進んでいる。地元の方が土地を提供し、プロジェクト初の2階建て寺子屋となる。アフガニスタン教育省識字局による要請や、地域の識字率、治安状況などを考慮し、教育省の建築専門家の設計図をもとに、地域の人びとが建設作業を進めている。日本ユネスコ協会連盟のアフガニスタン事務所や政府の専門家が建設の進捗確認や品質管理を行っている。10月ごろには完成し、12月には開所式典を行う予定となっている。

(事業部：鴨志田 智也)



プロジェクト初の2階建ての寺子屋を建設中

from カンボジア

ルエル寺子屋運営委員長、カンボジア教育省から表彰

9月8日、シエムリアップで行われた国際識字デーイベントで、ルエル寺子屋のクオン・コーン運営委員長に対し、カンボジア教育・青年・スポーツ省の「ベストCLC (Community Learning Center = 寺子屋) マネジメント賞」が授与された。7月初めに同省のCLC評価チームの調査を受け、CLCの運営能力、地域の教育普及への貢献度、地域発展への貢献度などが高く評価されたことによる。クオン・コーン委員長は、「ほかにも成果をあげた寺子屋がある中で選ばれ、とても光栄です。今後もベストを尽くします」と語った。

(事業部：穴戸 亮子)



賞状を授与されるコーン委員長 (右)

from ネパール

チトワンで寺子屋建設

ネパール南部チトワン郡では、新たにギタナガール寺子屋の建設が進んでいる。地元的女性が土地を提供し、現地パートナーであるNRC-NFEとギタナガール寺子屋が契約を結び、予算と期限を定めた。建設作業は、地方政府の建築担当課の設計図をもとに、地域の人たちが担当している。2019年10月の完成を目指し、開所式典にはユネスコ協会の会員も参加する予定となっている。

(事業部：鴨志田 智也)



今年秋の完成を目指す新しい寺子屋

Innovating Energy Technology

エネルギー技術を、究める。

電気、熱エネルギー技術の革新の追求により、
エネルギーを最も効率的に利用できる製品を創り出し、
安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献します。

FE 富士電機

富士電機株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2(ゲートシティ大崎イーストタワー) TEL.03-5435-7111

世界遺産活動

「もず 百舌鳥・古市古墳群」登録！世界遺産が1121件に
第43回 世界遺産委員会で決定

7月30日～8月10日、第43回世界遺産委員会がアゼルバイジャンのバクーで開催された。委員会では、日本から申請されていた「もず 百舌鳥・古市古墳群」の世界遺産リストへの「記載」が決定したほか、ミャンマーやイタリアの遺産など、合計29件（文化遺産24件、自然遺産4件、複合遺産1件）が新たに世界遺産リストに登録。総数は1121件（文化遺産869件、自然遺産213件、複合遺産39件）となった。



新たに世界遺産に登録されたミャンマーのバガン遺跡

また、世界遺産としての価値が危機的な遺産が登録されている「危機遺産リスト」からは、「ハンバーストーンとサンタ・ラウラ硝石工場群」（チリ共和国）、「イエス生誕の地：ベツレヘムの聖誕教会と巡礼路」が危機的な状況を脱したとして解除。一方、「カリフォルニア湾の島々と保護地域群」（メキシコ合衆国）が新たに危機遺産リストに追加され、合計53件となった。ミャンマーでは、バガン遺跡の世界遺産登録を目指して、ミャンマー政府とUNESCOが2015年7月から「バガン遺跡の保存修復プロジェクト」を実施、日本ユネスコ協会連盟も協力した。プロジェクトでは、遺跡の保存管理体制の構築を目指し、ミャンマー考古・国立博物館職員の能力の向上、3000以上の寺院・仏塔の正確な位置や情報の整理などが行われ、世界遺産への登録に貢献した。

（企画部：青山 由仁子）

「世界遺産年報」について

「世界遺産年報2018」では、『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』の特集や2017年までに登録された世界遺産リストを掲載。一般書店で発売中。（講談社、1000円・税別）なお、本年報は1995年より発行してきましたが、諸事情により今後制作の予定はありません。

【注】

- ・世界遺産リストへの登録手続きなどを行っているのは国連のUNESCOであり、UNESCOの日本国内の窓口は、日本ユネスコ国内委員会（文部科学省内）となります。国内の世界遺産については、文部科学省、文化庁、環境省、林野庁、外務省などへお問い合わせください。
- ・「もず 百舌鳥・古市古墳群」の世界遺産登録については、文化庁ホームページをご覧ください。

http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/1418407.html

白神山地の育樹活動にワンバサダー出動

「守ろう地球のたからもの」プロジェクトの一環、世界遺産「白神山地」周辺地域での育樹活動は今年で12年目を迎え、7月6日（土）に実施された。参加したのは、三菱UFJフィナンシャル・グループの社員29名と大勢の地元ボランティアたち。作業は、木の生育を妨げる樹木を刈り払う「除伐」や、成長の邪魔をする枝を切り落とす「枝降ろし」など。参加者は慣れない道具を用いながら、津軽人文・自然科学研究会やボランティアに指導を受け、丁寧に作業を行った。閉会式には、日ユ協連世界遺産活動特別大使「犬」（ワンバサダー）である秋田犬「わさお」も駆けつけ、充実した活動となった。

（事業部：尼子 美博）



ボランティアを含め総勢100名近い人びとが集った





世界遺産

毎週日曜日午後6時よりTBS系列で放送中

世界遺産

10月～12月ラインナップ

10月 6日	皇室と世界遺産（日本）
10月13日	放送休止
10月20日	イスチグアラスト・タランパジャ自然公園群（アルゼンチン）
10月27日	ピコ島のブドウ園文化の景観（ポルトガル）
11月 3日	メテオラ（ギリシャ）
11月10日	イヌイットの狩場（デンマーク）
11月17日	カッパドキアの岩石遺跡群（トルコ）
11月24日	放送休止
12月 1日	ピリン国立公園（ブルガリア）
12月 8日	ウィランドラの湖群地方（オーストラリア）
12月15日	もず 百舌鳥・古市古墳群（日本）
12月22日	ベストショット2019

放送予定は変更される事もありますのでご了承ください。

<https://www.tbs.co.jp/heritage/>

お知らせ

ホームページリニューアルのお知らせ

日本ユネスコ協会連盟は7月1日付けで公式ホームページをリニューアルしました。多彩なユネスコ活動をより多くの皆さまに伝えてまいります。引き続きよろしくお願いいたします。
公式ホームページアドレス
<https://www.unesco.or.jp>

2018年度「活動レポート」ができました

2018年度の日ユ協連の活動をまとめた「活動レポート」ができました。下記のホームページをご覧ください。
<https://www.unesco.or.jp/report/>



「東日本大震災 教育復興支援レポート 2018」ができました

2018年度の「東日本大震災 教育復興支援活動」をまとめた冊子ができました。奨学金事業にご寄付をいただいている募金者の方々と会員の皆さまにお送りしました。



ホームページからもご覧になれます。
<https://www.unesco.or.jp/report/>

年間領収書の発行と送付のお知らせ

日本ユネスコ協会連盟への募金・寄付金は、確定申告していただくことにより、税法上の優遇措置を受けることができます。2019年1月1日～12月31日に受領したご寄付の年間領収証明書は、2020年1月下旬ごろまでにお届けする予定です。紛失などによる領収証明書の再発行は承ることができませんので、申告時まで大切に保管していただきますようお願いいたします。下記の点にもご留意ください。

- ◆クレジットカードやコンビニ決済でのご寄付は、決済日ではなく、カード会社・決済代行会社から日ユ協連に入金された日が受領日となります。
- ◆今回発行分より領収書の名義や送付先住所を変更される方は、2019年11月29日（金）までに書面またはメール、もしくはお電話でお知らせください。
- 問合せ：総務部（根本、小澤）
E-mail : bokin@unesco.or.jp
TEL : 03-5424-1121

新規加入維持会員のご紹介

朝日不動産管理株式会社

代表取締役社長 池田 潔

弊社は、「安心、快適なビル環境の提供で、お客様の確かな信頼を！」を経営方針に掲げるビル管理企業です。日ユ協連を通じて、平和で公正な社会づくりに貢献させていただきたいと思っております。

株式会社オリエントコーポレーション

代表取締役社長 河野 雅明

「信頼関係を大切に、お客さまの豊かな人生の実現を通じて社会に貢献する」という基本理念の下、平和な世界の実現を目指し、ともに学び、行動する日ユ協連の活動に賛同し、参画させていただきます。

北日本ビル管理株式会社

代表取締役 逸見 龍馬

「人の和、誠意、技術」を社訓として1957年の創業以来、ビルの「安心・安全・快適な環境づくり」に貢献して参りました。日ユ協連の活動に賛同し、社業を通じて社会貢献に尽くして参ります。

株式会社新生銀行

代表取締役社長 工藤 英之

持続可能な社会の発展に貢献する「良き企業市民」としての役割を果たすため、さまざまな形で社会貢献活動に取り組んでいます。貴連盟の活動に共感し、協力させていただくことになりました。

税理士法人 添石総合会計事務所

代表社員税理士 所長 添石 幸伸

創業42年。当事務所は「地域と共に生きる」を理念の一つとして沖縄の人びとと企業を支えて参りました。SDGsの実現を目指し日ユ協連の一員として社会貢献活動に参画して参ります。

事務局人事

(10月1日現在)

事務局長：川上千春

事務局次長：長倉義信

〔企画部〕 部長（兼）：長倉義信

主任：木村まり子、本間雅子、上岡あい、青山由仁子

職員：小崎好美、安田詩香、笠原玲子

〔事業部〕 部長：関口広隆

部長代行：古澤真理子（休職中）

課長：尼子美博

主任：鴨志田智也、穴戸亮子

職員：仁藤里香、井上葵、香渡里沙

〔総務部〕 部長：藤田俊

副部長：根本清美

職員：小澤万里、笠松康子

募集

三菱アジア子ども絵日記フェスタ

2019-2020 作品募集中！

三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟および日本ユネスコ協会連盟では、1990年から「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」を実施。これまでアジアの国や地域から75万1069の絵日記作品が集まりました。今年は14回目。「伝えたい、私の生活」というテーマで、5日間の絵日記作品を6～12歳の子どもたちから募集しています。冬休みの出来事などを描いて、ぜひ応募ください。



●締切：2020年1月24日（当日消印有効）

●問合せ：三菱アジア子ども絵日記フェスタ

実行委員会事務局

TEL : 03-5777-6825

FAX : 03-5777-5351

E-mail : enikki@cicinc.co.jp

●応募先：105-0004 東京都港区新橋5-9-1

新橋5丁目ビル1F

三菱アジア子ども絵日記フェスタ

作品募集係

今後の主催事業日程

2019	10月5・6日	関東ブロック・ユネスコ活動研究会
	10月5・6日	近畿ブロック・ユネスコ活動研究会
	10月19・20日	東北ブロック・ユネスコ活動研究会
	11月2・3日	北海道ブロック・ユネスコ活動研究会
	11月9・10日	中部東ブロック・ユネスコ活動研究会
	11月9・10日	中部西ブロック・ユネスコ活動研究会
	11月9・10日	九州ブロック・ユネスコ活動研究会
	11月16日	第532回理事会、第49回評議員会
2020	1月18日	第533回理事会、第50回評議員会、新年懇親会
	2月下旬	第6回減災教育プログラム 活動報告会・フォーラム
	3月14日	第534回理事会